

小学生に向けたマイ・タイムライン出前授業

取組のあらまし

取組団体 神奈川県相模原市

取組内容 小学生に向けたマイ・タイムライン出前授業

推進体制 1～3名（令和7年度）

1 神奈川県相模原市の概要

人口	716,494人	令和7年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	8,104人	令和6年4月1日現在（一般行政部門：教育部門等の事例は各々の人数）
総面積	328.91km ²	令和7年10月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 神奈川県相模原市の位置図



出所：相模原市ホームページ

2 取組の背景・目的

(1) 令和元年東日本台風の影響

相模原市では、令和元年10月12日から13日にかけて関東地方を通過した令和元年東日本台風の影響で津久井地域を中心に多数の土砂災害が発生し、8人もの尊い命を奪うなどかつてない規模の被害をもたらした。

令和元年東日本台風では、逃げ遅れなどによる犠牲者が発生したこと、また、避難に関する問合せが多く寄せられたことから、風水害による「逃げ遅れ」などのリスクを軽減するため、マイ・タイムラインの作成を促進し、市民の防災意識の向上を図った。

また、令和2年10月以降、市内の風水害のリスクが高い小学校に対し、マイ・タイムラインを作成する出前授業を行うなど、児童への防災教育を推進している。

(2) 相模原市マイ・タイムラインに関する取組経過

令和元年10月	「マイ・タイムライン作成ガイドブック」を作成し、市ホームページに掲載
令和2年 2月	「マイ・タイムライン作成ガイドブック」を更新し、市ホームページに掲載
令和2年 6月	広報さがみはら6月1日号の特集記事にマイ・タイムラインを掲載
令和2年10月	田名小学校（4年生）において、市内で初めてマイ・タイムラインを作成する出前授業を実施
令和3年 6月	広報さがみはら6月1日号の特集記事にマイ・タイムラインを掲載
令和3年 9月	マイ・タイムラインシートと作成ガイドブックを防災ガイドブックと統合し、市ホームページに掲載（図表2）
令和5年 3月	マイ・タイムライン（地震版）のマイ・タイムラインシート及び記入例を作成し、市ホームページに掲載
令和6年 5月	マイ・タイムライン（分かりやすい版）を作成し、市ホームページに掲載

図表 2 さがみはら防災ガイドブック（表紙と背表紙）



出所：相模原市ホームページ

3 取組内容

(1) マイ・タイムライン出前授業の概要

マイ・タイムライン出前授業は、小学校4年生の社会科で実施することが、学習指導要領の位置づけからも効果的である。授業は市の職員と教員が連携して行い、授業内容は、「講義」のパートと「演習」のパートの二つに分かれる。

「講義」のパートでは、初めに学年全体向けに、台風の被害や台風到来時の様子、実際の避難場所の様子等を写真や動画を使って説明する。

「演習」のパートでは、①ハザードマップで自宅の周りが安全かどうか②安全でない場合はどこに避難するのか、安全な場合は避難する必要がないこと③どういう情報が出たら避難したらいいのか④必要な非常用持出品⑤避難が完了するまでの行動等を説明し、児童の様子を見ながら、一緒にマイ・タイムラインの作成を行う。

また、事前課題として、自宅の位置・想定される避難場所・非常持ち出し品などを家族間で考え、授業後に完成したマイ・タイムラインを家族間で共有することで保護者の方に対しても防災意識の啓発となる。学校によっては、学校公開日にマイ・タイムライン授業を実施しており、保護者も一緒に学ぶことができる機会を創出している。一度作成したら終わりではなく、家庭内で共有し、マイ・タイムラインのとおり行動ができるようブラッシュアップを依頼している。

図表 3 出前授業の様子



出所：相模原市提供資料

(2) マイ・タイムライン授業の創意工夫点

ア 行動等のシールを作成

図表 4 のとおり、児童向けマイ・タイムラインシートに直接書き込むこともできるが、シールを中心に授業を行うことで、児童が馴染みやすく、記入事項を迷わないようにしている。

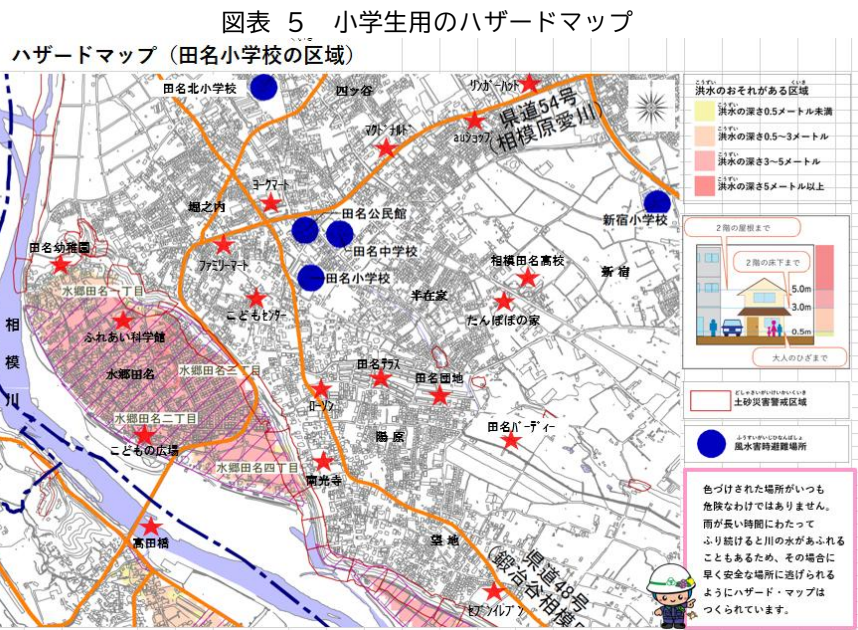
図表 4 児童向けマイ・タイムラインシートとシール



出所：相模原市提供資料

イ ハザードマップを児童向けに作成

通常のハザードマップとは異なり、近くの目印を多く記載することで、児童が自分の住んでいる場所を把握しやすいようにしている。また自分の家から近い避難場所の位置をわかりやすく記載している。



ウ 模擬授業の実施

出前授業実施前に当日円滑に実施できるよう教員向けに「演習」のパートの模擬授業を実施している。早期に習熟できるよう当日使用するスライドに原稿を入れ配付している。

4 成果・課題

(1) 成果

ア 実施校数及び参加人数

令和2年度以降、市内の小中学校等延べ25校で実施、延べ約1,800名の参加人数だった。

イ 参加者からの感想

- ・ 家族や警戒区域内に居住している祖父母にも授業で学んだ事を伝えたい。
- ・ ハザードエリア以外の児童が「逃げる必要がない」というのが、初耳だった。
- ・ 家族で災害時どこに逃げる等の話し合いをしていないため、話し合いを行う良いきっかけになった等の意見があった。

(2) 課題

ア 授業の役割分担

授業の役割分担について、「演習」のパートを教員に実施してもらうこともあるが、教員の負担が大きいとの意見もあるため、市の職員が「演習」のパートも実施するなど検討していく必要がある。

イ 授業の説明方法

取組を実施した当初は、令和元年東日本台風を経験した児童が多かったが、近年徐々に令和元年東日本台風を経験していない児童が対象になっていくため、児童にも理解してもらえるよう説明方法やマイ・タイムラインシートの修正など検討していく必要がある。

ウ 授業実施の簡易化

マイ・タイムライン授業実施のハードルを下げるため、現在2時間で実施しているプログラムを1時間にすることや、学校だけで実施できるように教員向けの研修を行う、取組の啓発などの方法を検討していく必要がある。

関連・参考資料

相模原市「復旧・復興に向けた取り組み状況について」

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/1026529/bousai/1008665/1018232.html>

相模原市「マイ・タイムラインを作成しましょう」

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/1026529/bousai/1008638/1018102.html>